

一般

段級

ことなど、清輔の筆にもとづめ置れしとぞ  
 卯の花をかざしに関の晴着哉曾良  
 兎角して越え行くまにあぶくま川を渡る。

【奥の細道】

改めてから関を越えたということが、藤原清輔の書き物にも記されている。

卯の花を花飾りにして、白河の関を越えるための晴れ着としよう

このようにして白河の関を越え、やがて阿武隈川を渡った。

